

平成22年5月25日現在

研究種目：基盤研究（A）
研究期間： 2006 ～ 2009
課題番号： 18252001
研究課題名（和文） 環太平洋価値観国際比較—東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析—
研究課題名（英文） Pacific-Rim Values Survey – Data Science of people’s sense of trust in the East Asia and the surrounding countries.
研究代表者 吉野 諒三（Yoshino Ryozo）
統計数理研究所・データ科学研究系・教授
研究者番号：60220711

研究成果の概要（和文）： 急変する世界情勢を考慮し、特に日本と他の東アジアやその周辺諸国の人々の価値観、対人的信頼感など人間関係に関する意識、自然観や生命観など、各国の人々の意見を、偏らずに集約する統計的方法にもとづいて面接調査を遂行した。政治体制と国民性との交絡など多様な側面が明らかになってきたが、特に、洋の東西を問わず、「家族の大切さ」の普遍的価値が浮き彫りとなった。我々は、これを「文化の多様体解析」としてまとめあげた。

研究成果の概要（英文）： This project carried out cross-national comparative survey of East Asia, USA, Australia and India by face-to face interview, based on statistical sampling. The questionnaire covered people’s attitudes, opinion and values as to interpersonal relationships, nature, life, religion, et al. This East Asia Values Survey (EAVS) has clarified various aspects, including the interaction between national character and political regimes. Among others, it confirmed the universal social value on “the family.”

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	10,600,000	3,180,000	13,780,000
2007年度	10,100,000	3,030,000	13,130,000
2008年度	7,500,000	2,250,000	9,750,000
2009年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
総計	32,100,000	9,630,000	41,730,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：統計科学

キーワード：信頼感, 国際比較調査, アジア・太平洋, 環太平洋, データの科学, 国民性, 統計的標本抽出調査, 文化多様体解析 (CULMAN)

1. 研究開始当初の背景

(1) 冷戦後の世界情勢の変動とともに、人々の信頼のあり方も大きな影響を受けている。家族関係、教育現場の混乱、職場の人間関係を含め、人々のつながりの伝統的なあり方が崩壊し、ありがとうございます。新たな安定を求めて、混乱が続いている。

(2) 各国が東アジアを含め、意識の国際比較調

査を遂行しているが、世界価値観調査 (WVS) など誤訳、調査遂行の質の問題が指定されていた。

(3) 以上の状況に鑑みて、我々は、特に東アジア周辺地域の人々の価値観や態度に関する意識調査を統計的な方法により、推進すべきという認識に至った。

2. 研究の目的

我々は、以下の3点を中心に研究を遂行した。

(1)文化の伝播変容を解明するために、環太平洋諸国の人々の意識構造について統計科学的標本抽出法に則り面接調査をする。

(2)特に、21世紀における国際交流の中で、環太平洋諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。

(3)収集した「環太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等を含むデータ・ベースを作成し、一般公開する。

3. 研究の方法

(1)我々は、まず、各国で統計学的にどの程度適正な標本抽出法に基づく適正な面接調査が遂行でき、また国際比較可能性が保てるのかという課題を検討することを主眼にした。

(2)上記のように各国の調査条件を把握した上で東アジアおよび周辺諸国の人々の価値観や意識を比較分析した。特に、対人的信頼感を含む、人々の「信頼感」に関する質問項目を多面的に工夫し、調査を遂行を計画した。

(3)収集されたデータは、慎重にデータ・クリーニングを経て、整備され、基本集計をまとめ、各研究者の多面的に解析を試行した。テーマによっては、全体を俯瞰するために、多次元データ解析等を試行した。

(4)基本データは、速やかに報告書やホームページ上での公開を計画した。

4. 研究成果

(1)東アジアおよび周辺諸国では、まず、統計的に厳格な標本抽出調査の遂行が限定され、その実態が政治状況とも密接であることが再認識された。

(2)東アジアでは、国により程度の差こそあれ、儒教の影響からはほとんど脱却していることが明確になった。人々の価値観、意識など、各国の人々の意見は、政治体制と国民性との交絡など多様な側面を明らかにした。特に、洋の東西を問わず、「家族の大切さ」の普遍的価値が浮き彫りとなった。これらの成果は、国際比較の新たなパラダイムとして「文化の多様体解析」としてまとめあげた。

(3)調査データの詳細は報告書として刊行し、世界の関係機関に配布し、ホームページ上で

公開した(統計数理研究所「意識の国際比較」<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/>)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計64件)

① Sasaki, M. (2011 掲載決定). Comparative Analysis of Social Trust among Five Nations. *Comparative Sociology*, Vol. 10. (査読あり)

② Yoshino, R. (2009) Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. *Behaviormetrika*, . 36, 2, pp. 115-147. (査読あり)

③ Fujita, T., & Yoshino, R. (2009) Social values on international relationships in the Asia-Pacific region. *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, pp. 149-166. (査読あり)

④ Yoshino, R., Nikaido, K., & Fujita, T. (2009) Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character: paradigm of cross-national survey. *Behaviormetrika*, 36, 2, pp. 89-113. (査読あり)

⑤ Hayashi, F. & Nikaido, K. (2009). Religious faith and religious feelings in Japan: analyses of cross-cultural and longitudinal data. *Behaviormetrika*, 36, 2, pp. 167-180. (査読あり)

⑥ Yamaoka, K. (2009). Subjective health and social factors: multidimensional data analyses of cross-national survey. *Behaviormetrika*, 37, 1, pp. 37-54. (査読あり)

⑦ Zheng, Y. (2009). Association analysis on pro-environmental behaviors and environmental consciousness in main cities of East Asia. *Behaviormetrika*, 37, 1, pp. 55-69. (査読あり)

⑧ 吉野諒三 (2008). 『科学的』世論調査の価値—歴史と理論と実践の三位一体. *日本統計学会誌* 37, 2, pp. 279-290. (査読あり)

⑨ 吉野諒三 (2008). いんぷおるむ第53回海外の標本抽出面接調査の方法. *新情報* 95, pp. 7-12. (査読あり)

⑩ 吉野諒三 (2008). 「国民性」と環境問題—文化の多様性を受け入れる政策立案のために—. *環境情報科学* 37, 1, pp. 21-26. (査読あり)

⑪ 吉野諒三 (2008). UFOは存在するか?—お化け調査再考『合理と非合理の間』—. *市場調査* 273, pp. 4-13. (査読なし)

- ⑫吉野諒三 (2008). 継続調査の課題と将来. 社会と調査 創刊号, pp. 29-35. (査読あり)
- ⑬裴岩晶・吉野諒三・鄭躍軍 (2008). 国際比較における「データの安定性」に関する一考察 --中国調査データの検討を通じた文化多様体解析の試行--. 統計数理, 55, 2, 173-185. (査読あり)
- ⑭Tsunoda, H., Yoshino, R. & Yokoyama. (2008). Components of Social Capital and Socio-Psychological Factors That Worsen the Perceived Health of Japanese Males and Females. The Tohoku Journal of Experimental Medicine, Vol. 216, No. 2, pp. 173-185. (査読あり)
- ⑮Yoshino, R. (2006). A social value survey of China --- on the change and stability in the Chinese globalization. Behaviormetrika, Vol. 33, No. 2, 111-130. (査読あり)

[学会発表] (計 76 件)

- ①吉野諒三. 信頼感と基本的価値観 ---アジア太平洋価値観国際比較調査における文化多様体解析. 日本行動計量学会 37 回大会 (大分大学) 2009 年 8 月 6 日
- ②吉野諒三. ソーシャルキャピタルと基本的価値観---国際比較のための文化多様体解析. 日本社会政策学会第 119 回大会 (金城大学) 2009 年 11 月 1 日
- ③Sasaki, Masamichi. Social Trust Contemporary Japan. International Institute of Sociology (IIS) エレバン 国立大学 2009 年 6 月 12 日
- ④山岡和枝. 健康感から捉えた文化的連鎖. 日本行動計量学会 37 回大会 (大分大学) 2009 年 8 月 6 日
- ⑤前田忠彦. 全国規模の社会調査の標本設計に関する一考察---日本人の国民性第 12 次全国調査を題材として---. 日本行動計量学会 37 回大会 (大分大学) 2009 年 8 月 6 日
- ⑥土屋隆裕. 国民性調査における調査不能. 日本行動計量学会 37 回大会 2009 年 8 月 6 日
- ⑦林文・二階堂晃祐. 宗教的な心の国際比較に向けて---2008 年インド調査を踏まえ、環太平洋価値観調査から---. 日本行動計量学会 37 回大会 (大分大学) 2009 年 8 月 6 日
- ⑧鄭躍軍. 文化観の国際比較---東アジアの伝統文化と現代文化を中心に---. 日本行動計量学会 37 回大会 (大分大学) 2009 年 8 月 6 日
- ⑨松本渉. 組織に対する信頼の文化多様体解析---東アジア価値観国際比較調査とアジア・太平洋価値観国際比較調査から---. 日本行動計量学会 37 回大会 (大分大学) 2009

年 8 月 6 日

- ⑩鄭躍軍. 国家間の国際比較---東アジアの政治意識を中心に---. 日本行動計量学会 36 回大会 (成蹊大学) 2008 年 9 月 3 日
- ⑪松本渉. アジア・太平洋地域における組織に対する信頼---国際比較と時系列比較---. 日本行動計量学会 35 回大会 (同志社大学) 2007 年 9 月 5 日
- ⑫鄭躍軍. 規範間の国際比較---東アジアの法意識を中心に---. 日本行動計量学会 35 回大会 (同志社大学) 2007 年 9 月 5 日

[図書] (計 41 件)

- ①吉野諒三編 (2010). 環太平洋価値観国際比較調査---東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析---. 総合報告. 統計数理研究所.
- ②吉野諒三 (2008). 第 1 章 信頼の国際比較. 「ソーシャル・キャピタルの潜在力」(稲葉陽二編著). 日本評論社.
- ③吉野諒三編 (2008). 環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2008 年度インド調査報告書. 統計数理研究所
- ④吉野諒三編 (2008). 環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2007 年度シンガポール調査報告書. 統計数理研究所
- ⑤吉野諒三・松本渉編 (2008). 環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2007 年度オーストラリア調査報告書. 統計数理研究所
- ⑥吉野諒三・山岡和枝編 (2008). 医療と文化の連関に関する統計科学的研究---生命観の国際比較 2006 年度米国 CATI 調査---. 統計数理研究所
- ⑦吉野諒三編 「東アジア国民性比較 データの科学」. 勉誠出版. (2007).
- ⑧吉野諒三・千野直仁・山岸侯彦. 数理心理学. 培風館. (2007).
- ⑨吉野諒三編 (2007). 環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2006 年度 USA 調査報告書. 統計数理研究所
- ⑩吉野諒三・裴岩晶編 (2007). 環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2006 年度台湾調査報告書. 統計数理研究所
- ⑪吉野諒三・松本渉編 (2007). 環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2006 年度韓国調査報告書. 統計数理研究所
- ⑫吉野諒三編 (2007). 環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2005 年度中国 (北京・上海・香港) 調査報告書. 統計数理研究所

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等
統計数理研究所「意識の国際比較」
<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉野 諒三 (Yoshino Ryoza)
統計数理研究所・データ科学研究系・教授
研究者番号：60220711

(2) 研究分担者

松本 渉 (Matsumoto Wataru)
統計数理研究所・データ科学研究系・助教
研究者番号：10390585

(3) 連携研究者

林 文 (Hayashi Fumi)
東洋英和女学院大学・人間科学部・教授
研究者番号：00180977

(4) 連携研究者

山岡 和枝 (Yamaoka Kazue)
国立保健医療科学院・技術評価部・室長
研究者番号：50091038

(5) 連携研究者

佐々木 正道 (Sasaki Masamichi)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：30142326

(6) 連携研究者

鄭躍軍 (Zheng Yuejun)
同志社大学・人間情報科学部・教授
研究者番号：80280527

(7) 連携研究者

前田 忠彦 (Maeda Tadahiko)
統計数理研究所・データ科学研究系・准教授
研究者番号：10247257

(8) 連携研究者

土屋 隆裕 (Tuchiya Takahiro)
統計数理研究所・データ科学研究系・准教授
研究者番号：00270413